～第69回日本小児保健協会学術集会を開催するにあたって～

この度、第69回日本小児保健協会学術集会を令和4年6月24日～26日の3日間にわたり、三重県津市にごぞいます三重県総合文化センターで開催することとなりました。2020年からの新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、現地の会場に加え、WEBとのハイブリッド開催を予定しております。

超少子化時代が続く中、子どもたちの健やかな成長をするには、医療はもとより、保健、福祉、教育、行政など、すべての分野の総力を集めることで、初めて未来を担う子どもたちが安心して暮らすことができる社会が築かれるものと思います。本学術集会の大会テーマは「みんなが安心して安全な未来をめざして -こどもの成育における医療・福祉・教育の協働-」と致しました。子供を取り巻く環境は近年大きく変化しており、いじめ、虐待、不登校、ネット依存、発達障害、自殺、などなど、多数の課題が山積しています。2018年12月に成育医療等基本法が成立し、こども家庭庁が創設されようとする中、今後ますます国や市町村、関係機関の働きかけが増すことで、子どもの成育には追い風を受けることと思います。また2020年からは国の事業としてチャイルドデスレビュー（CDR）が始まり、予防可能な子どもの死をいかに防ぐかの施策も始まりました。そのような状況の中で、1つ1つの問題をできることから議論を進めていければと思います。

本学会の企画としましては会頭講演、基調講演に加え、3つの特別講演、8つの教育講演、14のシンポジウム・セミナーを予定させていただきました。また、口演による一般演題を現地会場にて3大会ぶりに復活させていただきます。本学会を通じて、子どもたちが安心して安全な成育ができることで明るい未来を切り開くきっかけとなる学会になればと幸いです。

つきましては三重大会の趣旨をご理解の上、新型コロナウイルス感染症は未だ予断を許しませんが、皆様におかれましては可能でございましたら三重県にお運びいただける機会であることを願っています。

末筆になりましたが、皆様の益々のご健勝をお祈りいたします。

第69回日本小児保健協会学術集会

会 頭 平山 雅浩

(三重大学大学院医学系研究科小児科学教授)